

読者の声

「介護支援専門員として」

●美唄歯科医師会会員
吉村裕美子



2000年の4月から施行される介護保険で必要と
なってくる資格なのですが、介護支援専門員って
知っていますか？

簡単にいうと、介護が必要なお年寄りが適切な
サービスを受けられるように、介護計画を立てたり、
市町村やサービス事業者との連絡調整をする
人のことなんです。まだまだ知名度は低くて、市
役所の案内係に「介護支援専門員」といっても「介
護？えっ？」って聞き返されてしまうありさまで
す。

さてその介護支援専門員（横文字だとケアマネ
ージャー、略してケアマネともいう）の一回目の
試験が昨年行われまして、めでたく試験に合格し
た私は先日実務研修も終え、北海道知事から研修
修了証をいただきました。でも歯科医師で主婦の
私が実際に介護支援専門員の仕事をするのは不可
能なのです。「いつか役に立つ時が来るかも知れな
い…」なんてあいまいな気持ちで受けた私でした
から、ペーパードライバーみたいなものになるこ
とは予想していました。けれども実務研修で、実
際に介護の現場で働いている人の話を聞いたり、
介護が必要なお年寄り（要介護者といいます）と
接していくうちに何らかの形で介護保険に係わっ
ていきたいと思うようになりました。

現在の日本の要介護者の口腔内の状況はどうで
しょうか？在宅、施設入所者いずれにおいても歯
科的に見るとかなり悲惨な状態のようです。噛む、
飲む能力があるのに、流動食をむりやり与えられ
ていたり、口腔内が不潔なために嚥下性肺炎で命
を落としてしまったり…それが決して珍しいこと

ではないのです。8020運動が聞いてあきれる状態
です。その理由は施設においては人手不足、コス
トがかかるという経営者サイドの都合だったり、
在宅においても人材不足だったりということらし
いのです。歯科医師サイドから要介護者サイドへ
の働きかけが足りなかったのではないかと思うか
らです。歯科医院に自分で通ってこれないたくさ
んのお年寄り達に、歯科医師や歯科衛生士と接す
る機会を増やすにはどうしたらよいのか、施設の
経営者や職員、家庭の介護者（お年寄りの面倒を
みている人）に口腔衛生や嚥下訓練の重要性をわ
かってもらうにはどうしたら良いのか、などなど
…。

でも、この私に何ができるでしょう？時間もな
く、何の権力もない私が…。気持ちだけじゃ何に
も役に立てないんです。ところが私にチャンスが
与えられました。私の住む美唄市で「介護支援専
門員の集い」なる会合が月に一回催されることにな
ったのです。そこでは介護計画を立てる勉強会
や、介護サービスについての研究などが行われる
予定です。介護支援専門員といっても医師、看護
婦、保健婦、施設職員など様々な職種の方がいま
す。実際介護支援専門員として活躍される方々も
いますし、私のように介護支援専門員の仕事をし
ない人もいます。でも大切なことは様々な職種の
人が意見交換のできる場ができたことです。その
中で歯科医師は私一人です。その会合の中で口腔
ケアや嚥下訓練などについての重要性を理解して
もらうこと…これが私が介護支援専門員としてで
きることの一步かなと考えています。